

ENVIRONMENTAL REPORT

エコプロダクツ東北2009に出展



株式会社オイルプラントナトリ
環境報告書2010

ご挨拶

代表取締役社長
武田 洋一



高度経済成長によって、豊かな文明が栄えた社会環境を創り上げてきた素晴らしい20世紀……。その豊かさ引き換えに生み出された大量の産業廃棄物・二酸化炭素の増加に伴う地球温暖化の問題等も、また、20世紀の姿であるといえます。

一方、昭和32年創業来、先代の手によって、環境汚染の問題にいち早く取り組み、思考と努力によって、リサイクル事業における様々なノウハウと技術力を培ってきた時代でもあります。

「燃やす・埋める」行為から「リデュース・リユース・リサイクル」へ、「20世紀・大量生産、大量廃棄時代」から「21世紀循環型経済社会」へと環境問題に対して社会の在り方が、大きく変わり始めています。

ダイオキシン（環境ホルモン）をはじめ、人体への影響を与える様々な環境汚染を未然に防ぎ、省エネルギーを基盤に、限りある資源を有効に活かすことこそが21世紀の在るべき姿であると考えます。

これからも、私たちオイルプラントナトリは「環境保全と省エネルギー」の為に木くずや廃油を燃料にした、創業時の理念の基、自然環境との共生、そしてクリーンな社会環境・人にやさしい環境等、グローバルな視点に立った姿勢で事業に取り組んでまいります。

より一層の御指導と御鞭撻の程を切に御願ひ申し上げます。

平成22年度 会社目標

スローガン

じりゅう きゅうぎ
及流嗅技

***** キーワード *****
【自己の限界を決めない】

現状に満足せず、常に高い目標にチャレンジしていく事

1. 逃げない

おのれ
「自己を敬え」

ピンチはチャンスと捉え、己の壁を乗り越えよ

2. ごまかさない

ひと
「他人を敬え」

結果は数字として現れる、真摯に業務に取り組み

3. 嘘をつかない

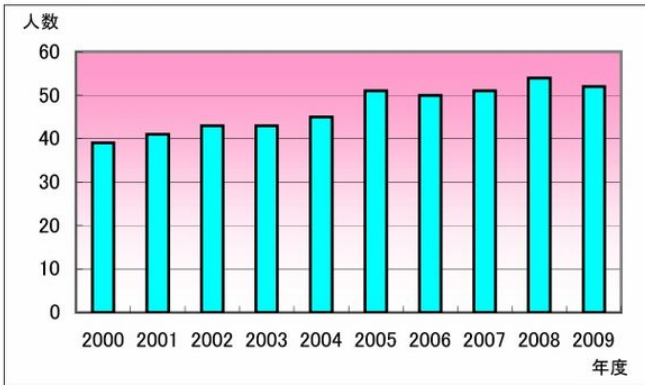
こと
「仕事を敬え」

誠実な行動は、より良いコミュニケーションの潤滑油である

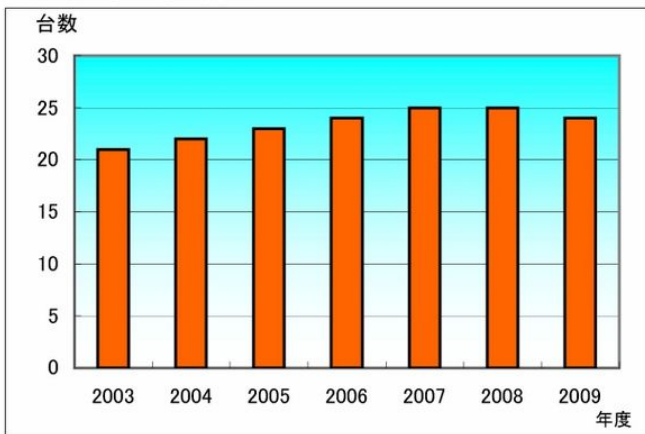
会社概要

- 社名 株式会社オイルプラントナトリ
- 創業 昭和32年3月
- 本社 宮城県名取市増田三丁目4番3号
- 事務所 宮城県名取市下増田字広浦52番3号
☎ 022-382-2713 ☎ 022-384-0946
e-mail opn-amenity@msf.biglobe.ne.jp
http://www.opnatori.co.jp/

- 第1工場 宮城県名取市下増田字広浦35番48号
- 第2工場 宮城県名取市下増田字広浦52番3号
- 法人設立 昭和63年4月
- 資本金 3,000万円
- 役員員数 52名(平成22年4月1日現在)
- 人員の推移



収集運搬車両推移



敷地

第1工場 6230.71m²

第2工場 7127.41m²



- 産業廃棄物処分業許可
産業廃棄物処分業 宮城県
特別管理産業廃棄物処分業 宮城県
- 産業廃棄物収集運搬業・許可(県・政令市)

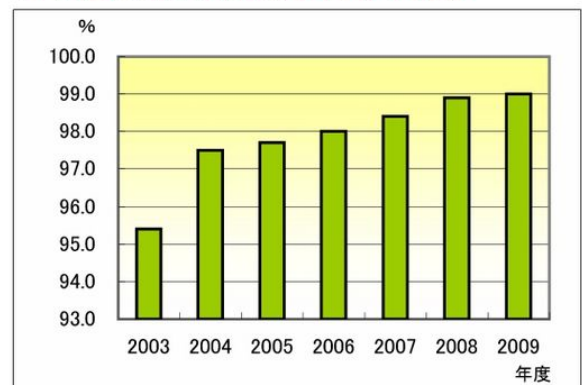


- 石油製品販売業者
通商産業省第2-4-0-2740号

販売品

- ・ バイオECO燃料 (BDF)
- ・ 再生B重油
- ・ 鉱物系補助燃料
- ・ 塩素含鉱物系補助燃料
- ・ 溶剤系補助燃料
- ・ 塩素含溶剤系補助燃料
- ・ 剥離剤

受注産業廃棄物のリサイクル率推移



〔主要設備および処理能力〕

□ 運搬車輛

(平成22年4月1日現在)

12kℓタンクローリー	3台
10kℓタンクローリー	2台
5kℓタンクローリー	1台
4kℓタンクローリー	4台
7tウイング車	1台
6tウイングパワーゲート付車	1台
5tクレーンパワーゲート付車	1台
4tパワーゲート付車	1台
3tウイングパワーゲート付車	1台
3tパワーゲート付車	2台
2tパワーゲート付車	2台
8tアームロール車	1台
4tアームロール車	1台
2tローリー燃料配達車	1台
ライトバン	2台
合計	24台



12tタンクローリー



4tタンクローリー



2tローリー



7tウイング



8tアームロール



5tクレーン車

□ 中間処理施設

・油水分離処理施設



廃オイル⇒再生重油
30m³/日(10時間稼働)

・1号機破碎処理施設



廃プラ⇒4.6t/日(8時間稼働)
木くず⇒19.6t/日(8時間稼働)

・2号機破碎処理施設



廃プラ⇒固形燃料
11.4t/日(8時間稼働)

・中和処理施設



中和攪拌タンク

廃酸・廃アルカリ⇒加工用水
43m³/日(10時間稼働)

・混合処理施設



廃溶剤⇒補助燃料
136m³/日(10時間稼働)
水溶性廃液⇒加工用水

・廃食油の燃料化施設



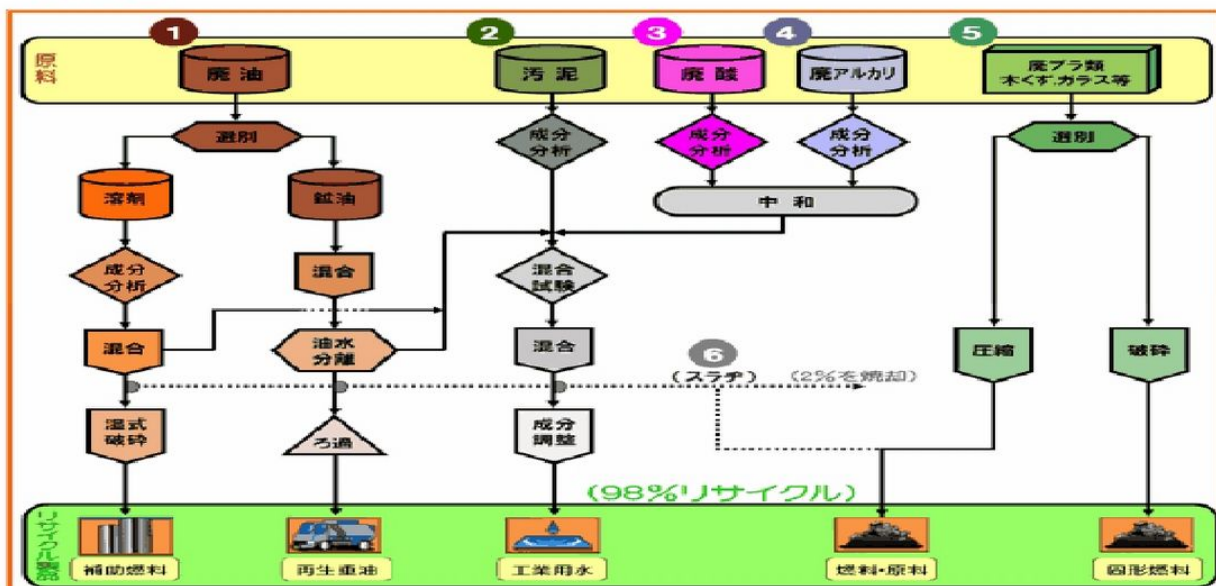
てんぷら油⇒BDF
15m³/日(10時間稼働)

・廃棄物分析室



蛍光X線分析装置

□ 処理工程図



環境保全活動に関する方針

環境方針

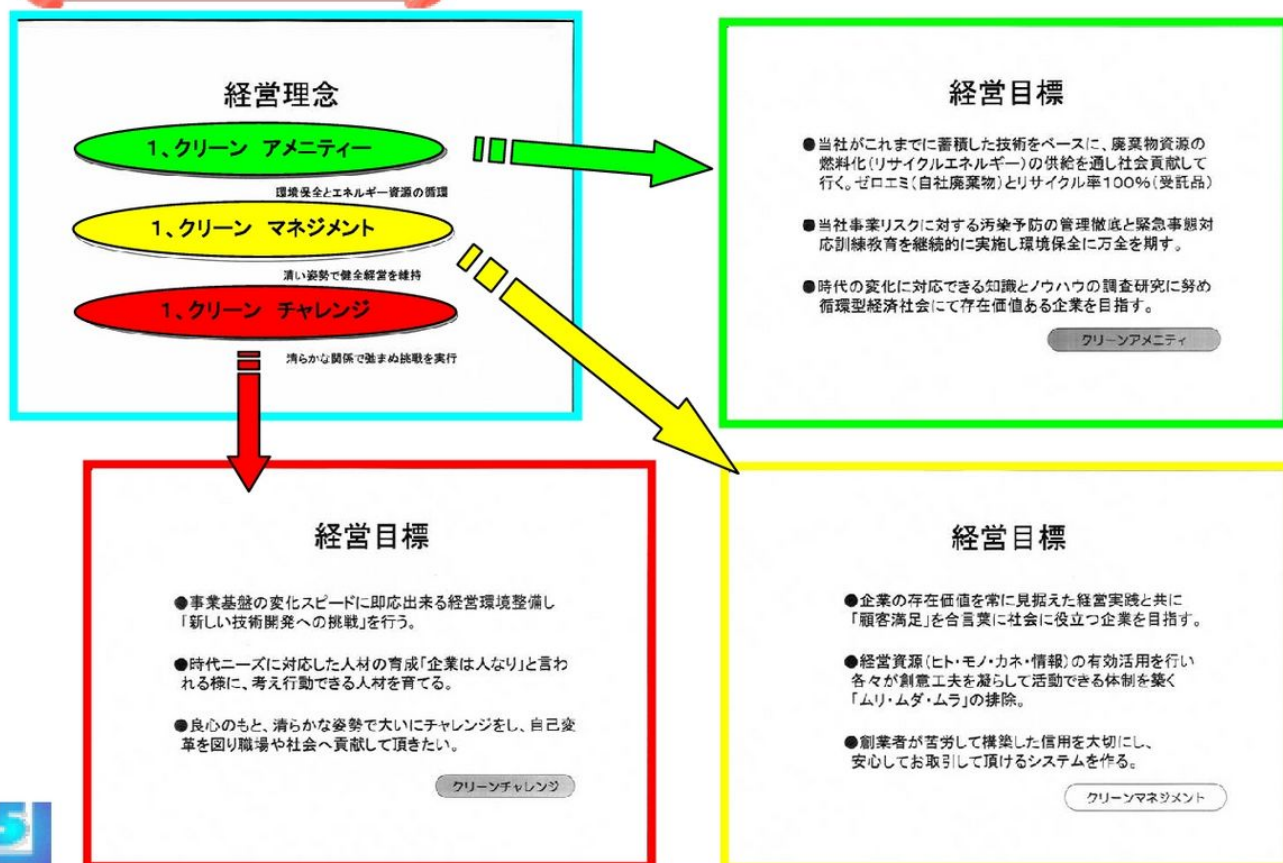
株式会社オイルプラントナトリは廃棄物の有効利用、及び再資源化を通じて生活環境の継続的な向上に全社員参加で貢献します。

1. 委託された廃棄物は、安全且つ適正な収集運搬と処分を行うと共に、有効利用、再資源化技術の向上に取り組み、環境保全、省エネルギー、省資源に努めます。
2. 作業工程での環境への配慮に努め、汚染の予防及び環境マネジメントシステムの継続的な改善をします。
3. 環境に関する法律、規制、条例及びその他要求事項を遵守します。
4. 環境目的、目標を定め、実施状況を確認し、定期的に見直しを図ります。
『<<もったいない>>をモットーに重点テーマを次に定めます』
 - ◎ バイオE CO燃料（廃食用油の燃料化）による大気汚染物質の低減に寄与
 - ◎ 施設・設備・作業環境の点検及び管理の徹底
 - ◎ MSDSや物性表の入手を徹底し廃棄物の安全性の確認により適正処理
 - ◎ 収集運搬における車輛及び容器の点検及び管理の徹底
 - ◎ 事業活動におけるエネルギー消費とCO₂発生の削減
 - ◎ 廃棄物の燃料化、原料化、資源化のリサイクルの推進
5. この環境方針を継続的に実行するため、文書化し全従業員に周知します。
6. この環境方針は、積極的に社外に公開します。

2010年3月10日

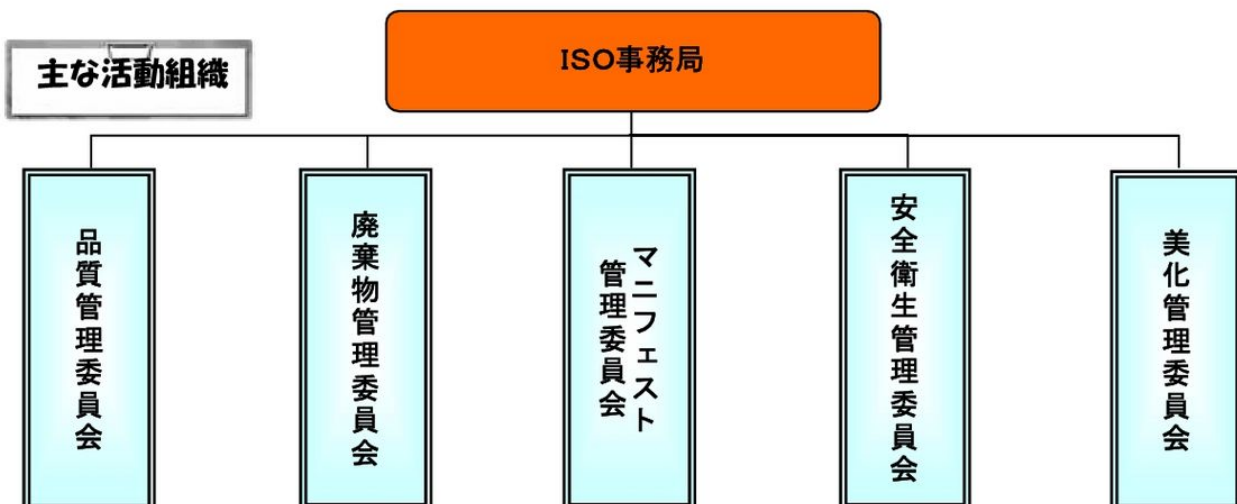
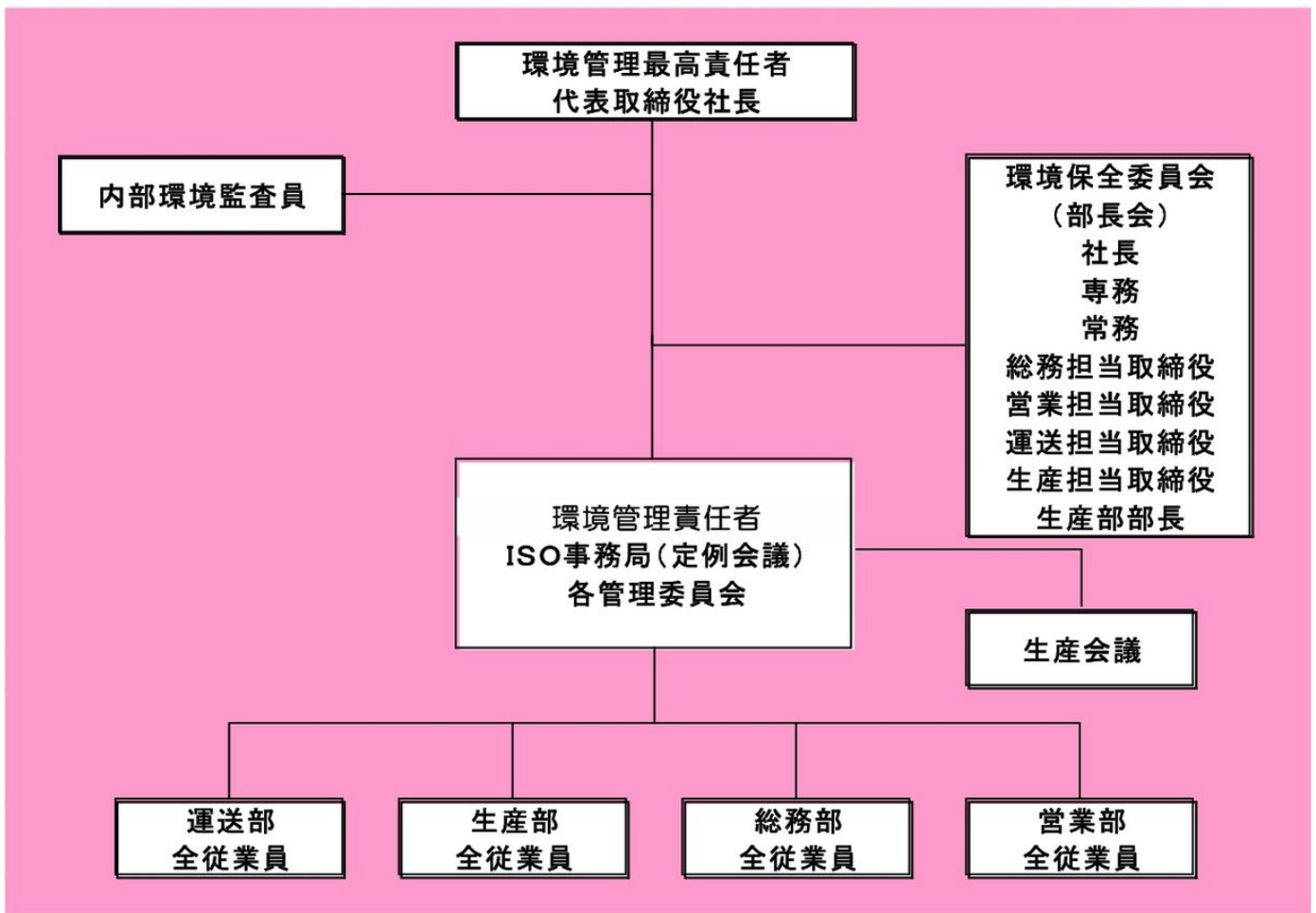
株式会社 オイルプラントナトリ
代表取締役社長 武田 洋一

経営理念



環境管理組織体制

当社の環境保全活動は、下図のような体制で運営されています。
メンバーが全員役員で構成される「環境保全委員会」を設置し、経営と現場の両方の視点から迅速な対応を実現しております。
また、事業活動全体の環境負荷を把握し、効率的な環境活動を行うため、ISO事務局会議や生産会議（各部間の連携を目的とする）および内部環境監査員、各管理委員会の協力の上で、定期的なチェック体制は欠かす事の出来ない重要な活動です。



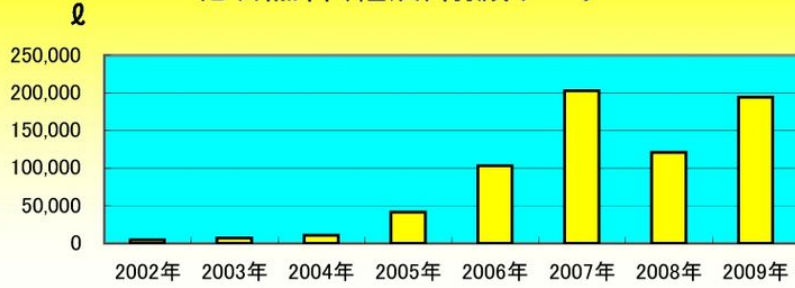
環境保全活動

軽油使用量の削減

《エネルギー使用量の削減》

2009年度削減数量
合計 **194,322ℓ**

化石燃料(軽油)削減データ



2009年度は、順調にBDF車両を増加させる事ができ、弊社環境目標を達成する事ができました。弊社車両へのBDF使用は **187,374ℓ** となり、アイドリングストップ活動と合わせると約194kLの軽油削減結果となりました。

また、ご協力頂いております25社のお客様にも弊社製造のBDFを使用頂き、販売実績は71,056ℓ/年弊社使用分と合計すると年間BDFの取扱量は255,430ℓとなりました。

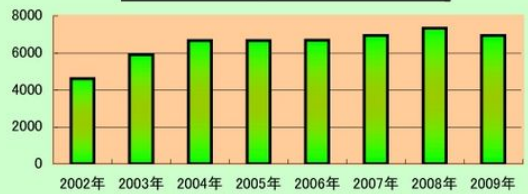
《アイドリングストップの推進》



休憩時間や作業時にアイドリングストップを行い、2009年度は、年間 **6,948ℓ** の燃料削減ができました。

(メーカー提出資料の不要なアイドル運転による燃料消費データから計算)

アイドリングストップによる燃料削減



BDF100%で快走 国内初!!
新長期排出ガス規制率の実績

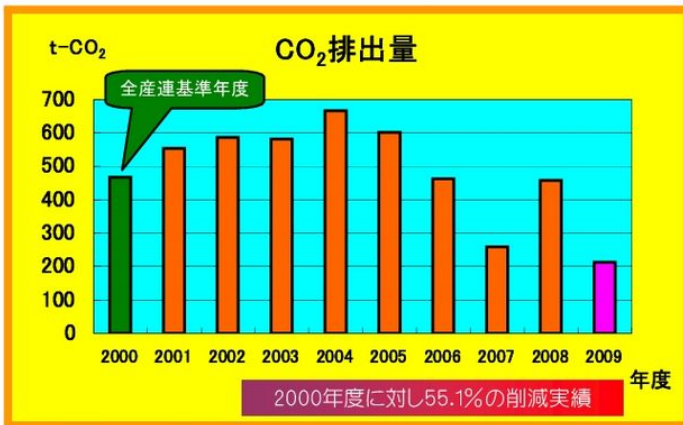
- ①2008年8月2日(土)テスト走行距離41.7km! 約1時間の走行テスト合格
- ②2008年9月には1ヶ月間の走行テスト合格
- ③2009年1月から2010年3月末までの実績 **【部品交換なし NOトラブル!】**
走行距離 111,115km BDF使用量 34,682リットル



CO₂の排出削減

弊社では、バイオディーゼル燃料の使用およびアイドリングストップにより、年間514tのCO₂を削減しました。

当社では、2006年度のCO₂排出量463tを基準値とし、2007年から3年間で50%の削減を目標にしてきました。2007年度のCO₂の実質排出量は259tで2006年度比 44.1%減、2008年度は458tで2006年度比 1.1%減、2009年度は210tで2006年度比 54.6%となり3年目で目標を達成する事が出来ました。



CO₂削減意識向上

乗車車両情報入力フォーム

※「Enter」キーで次の項目へ進みます。

※1ページにつき、1車両についての入力です。
2台以上の利用があった場合には、「追加」ボタンで追加してください。

5450

使用日	2009/07/02
車両番号選択	03-99
利用者選択	佐藤 美彦
アイドリングStop時間	140
有料道路使用料金	¥2,050
BDF給油量	290.00 ℓ
軽油給油量	0.00 ℓ
走行距離	350 km
走行時間	7:00

***** 項目追加して
[走行距離]→選択して
走行距離
[走行時間]→選択して
走行時間

追加 保存 中止 終了 確認

運送部では、作業中や休憩時のアイドリングストップ時間を、運転手各々が運搬終了後にパソコン入力しています。

電力の使用量



電力使用削減活動



発電機の燃料はBDF100%を使用。発電された電力はBDF給油機2台・夜間照明2基・洗車機2台で利用しています。



弊社のBDF(バイオECO燃料)は定期的に外部に委託し品質の向上に努めております

※弊社BDF車両は、全て100%で利用しています。

No.	測定分析項目	単位	弊社バイオECO燃料	EU規制値(参考)	ニートFAME規格(参考)	試験方法(暫定規格含む)
1	密度(15°C)	g/mL	0.8867	0.86~0.90	0.86~0.90	JIS K 2249
2	動粘度(40°C)	mm ² /s	4.908	3.5~5.0	3.5~5.0	JIS K 2283
No.3・4は、受渡当事者間の合意による						
3	流動点	°C	-17.5	-	-	JIS K 2269
4	目詰点	°C	-5	-15~+5	-	JIS K 2288
5	水分	ppm	342	500以下	500以下	JIS K 2275
6	10%残留炭素(減圧蒸留)	%	0.57	0.30以下	0.30以下	JIS K 2270
No.7は、受渡当事者間の合意による						
7	酸化安定性(110°C)	hr	4.0	6.0以上	-	EN 14214
8	セタン価	-	53.3	51以上	51以上	JIS K 2280
9	硫黄分	ppm	3	10以下	10以下	JIS K 2541-1, -2,-6または-7
10	引火点	°C	174.5	120以上	120以上	JIS K 2265
11	アルカリ金属 Na	mg/kg	<2	あわせて5以下	あわせて5以下	EN 14108及びEN 14109
12	アルカリ金属 K	mg/kg	<2			
13	アルカリ土類金属 Ca	mg/kg	<2	あわせて5以下	あわせて5以下	EN 14538
14	アルカリ土類金属 Mg	mg/kg	<2			
15	リン	mg/kg	<2	10以下	10以下	EN 14107
16	固形不純物	ppm	0.9	24以下	24以下	EN 12662
17	硫酸灰分	wt%	0.012	0.02以下	0.02以下	JIS K 2272
18	銅版腐食試験(3hr@50°C)	変色記号	1a	Class1	1以下	JIS K 2513
19	酸価	mg KOH/g	0.32	0.5以下	0.5以下	JIS K 2501又はJIS K 0070
20	ヨウ素価	g I/100g	114	120以下	120以下	JIS K 0070
21	メタノール	wt%	<0.02	0.20以下	0.20以下	EN 14110
22	モノグリセライド*1	wt%	0.64	0.80以下	0.80以下	EN 14105
23	ジグリセライド*1	wt%	0.21	0.20以下	0.20以下	EN 14105
24	トリグリセライド*1	wt%	0.04	0.20以下	0.20以下	EN 14105
25	遊離グリセリン*1	wt%	<0.005	0.02以下	0.02以下	EN 14105
26	全グリセリン*1,*2	wt%	0.21	0.25以下	0.25以下	EN 14105
27	リノレン酸メチルエステル	wt%	6.1	12.0以下	12.0以下	EN 14103
28	(脂肪酸メチル)エステル(総)量*3,*4	(Σ%)	91.2	96.5以上	96.5以上	EN 14103

※ニートFAME規格(JASO規格)は、軽油に混合する事を前提とした規格である。

特定荷主様へのご提案！

『 弊社⇒お客様⇒弊社(中間処理)⇒最終処分場(リサイクル)⇒弊社 』

CO₂ゼロカウント区間

産業廃棄物に係わる輸送について、全ての区間でCO₂ゼロカウントの燃料(100%のBDF)を使用し、お取引を頂いておりますお客様に限り、CO₂削減の特典(当社独自の証明書)を付ける事が出来ます。

ちょっぴり森林募金活動

自動販売機で飲料水を買って森林活動を支援しています。簡単に出来る支援システムだからこそ、誰でも支援出来るシステムが全国に広がってほしいものです。



緑の募金は(社)宮城県緑化推進委員会へ寄付され、みどりの少年団等の緑化活動へ役立てられます。



清掃活動・・・（美化管理委員会）

平成21年度も工場周辺のごみ拾いを、4回実施しました。
 （5月23日・8月24日・10月31日・1月28日）
 また、場内の美化パトロールも行うなど、活発に活動しています。



22年1月28日の清掃活動 用水路部隊出陣



21年10月31日の清掃活動(31名参加)



清掃活動中に一般道路から第2工場に向かう所にあるU字工が土砂で埋まっているのを発見。
 雨水が流れにくくなっていた事から、21年11月13日に土砂の撤去作業を行いました。



3年間育てたキュウイの苗も立派に育ち、とても甘くて美味しく頂くことができました。



閑上海岸清掃活動で頂いた種を会社に寄付し、美化管理委員会で育てる事にチャレンジしました。

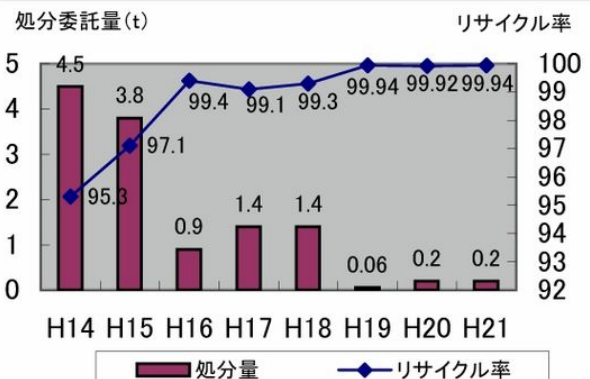


見事に花を咲かせる事が出来ました。また、除草剤を作成する事に成功し効果が現れましたがコスト高となり断念しました。



事業系一般廃棄物ゼロエミッションへの活動

弊社では、2004年度にゼロエミッションを達成し維持継続しておりますが、最新の廃棄物管理ルールを周知するとともに、自社定義の見直しを行なっています。
 ゼロエミッションを達成するために炭化処理機をフルに稼働させながら、炭化物の品質を向上させて花壇や野菜の土壌改良剤として使用しました。
 平成21年度のリサイクル率は99.94%でした。



チームワーク向上

ISO14001の事務局内に(品質・安全・マニフェスト・廃棄物・美化)の5つの管理委員会を設け、多くの従業員が各活動に関わり、部門を越えた上司や同僚とのコミュニケーションの機会を多く作る事により、業務が円滑に進みやすくなる事と人材の新たな一面を見る事が出来ました。

資格取得者

◎ 産業廃棄物中間処理施設技術管理士	2名	◎ フォークリフト	27名
◎ 収集運搬・処分業の許可申請に関する講習	3名	◎ 有機溶剤作業主任者	5名
◎ 内部環境監査員外部講習修了者	22名	◎ 特定化学物質等作業主任者	3名
◎ 特別管理産業廃棄物管理責任者	15名	◎ 第一種衛生管理者	4名
◎ 危険物乙種(4類)	44名	◎ 甲種防火管理者	4名
◎ 危険物丙種	3名	◎ 大気関係公害防止管理者1種	1名
◎ 小型移動式クレーン	8名	◎ 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	8名
◎ 床上操作式クレーン	5名	◎ 安全運転管理者	2名
◎ 騒音関係公害防止管理者	1名	◎ 消防設備点検資格者	1名
◎ 毒物劇物取扱者	3名	◎ eco検定(環境社会検定試験)	7名
◎ ボイラー技士	6名	◎ 救命技能	22名



2009年度環境目標の達成状況

○ = 達成 × = 未達成

No.	環境方針	配慮項目	目標・実績	2009年度	評価
1	省エネルギー・省資源	エネルギー消費CO ₂ の削減	目標	① CO ₂ 削減 ・ 354 t 排出目標	○
			実績	・ 213 t 排出	
2	有効利用、再資源化技術の向上	廃棄物のリサイクルの推進	目標	① 自社排出の一般廃棄物及び産業廃棄物のリサイクル率 ・ 100%	○
			実績	・ 99.94%	
3	安全且つ適正な収集運搬を行うこと	利害関係者の意見	目標	① 顧客様からのクレーム削減 ・ 5件/年までに減らす活動	×
			実績	・ 9件/年	
4	法律・規制・命令等を順守	他の法的要求事項	目標	① 違反事例0活動の維持	○
			実績	・ 違反0件 ・ 0件の見込	
5	作業工程での環境への配慮に努め汚染の予防	施設・設備・作業環境・収集運搬における環境汚染の未然防止	目標	① 漏洩・安全に関する事故の削減(小さなトラブルも全て吸い上げる) ・ 17件以内	×
			実績	・ 37件の見込(交通事故・環境事故なし)	
6	廃棄物の燃料化、原料化、資源化のリサイクルの推進	有益な環境側面 廃棄物のリサイクルの推進	目標	① 油水原料の確保 ・ 13,200 kℓ/年	×
			実績	・ 10,158 kℓ/年	
			目標	② 廃食油の確保 ・ 平均35 kℓ/月	○
			実績	・ 平均33ℓ/月	
			目標	③ 新規リサイクル可能物の増加 ・ 出荷実績を150 t/年	○
実績	・ 181.3 t/年				
目標	④-1 再資源化促進PR ・ BDF、会社案内パンフの見直し ・ 見直しを行なった	○			
実績	④-2 BDF出荷量の増量 ・ 231,000ℓ/年の販売量 ・ 257,793ℓ/年の見込				



教育・訓練

社内全体研修

- 1、交通安全教育について
- 2、BCP(緊急時事業継続計画)の必要性について
- 3、地震発生による緊急事態の対応訓練。自衛消防隊連絡体制の検証(休日を設定)



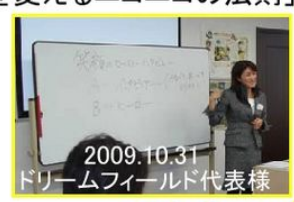
- 4、宮城県に於ける3Rの推進について



宮城県内で1年間に発生するごみは、宮城県庁の約12杯分の量に相当します。
4人家族で約1,620kg/年ですので、「今日から始める私の3R宣言」に記載しご家庭で推進していきましょう。



- 5、「人生を変えるニコニコの法則」について



3つの基本スキル

- 1) 聴く
- 2) 認める
- 3) 質問する

合言葉は～

「信・認・任」

信 = 可能性を信じる
認 = 認めて信じる
任 = やらせてみる

コーチング 可能性・能力・気・モチベーションを伸ばす

- 6、コミュニケーションがどんどん良くなる「伝え方・聴き方」について



人には価値観があります。
人は自分の都合の良いように話を聴いています。
聞き手によって話のイメージの捉え方が違います。
それでは、先生の話聴いて絵を描いてみましょう！



- 7、一日の作業から見る「法と業務の関連付け」...各部のISO事務局発表

総務部



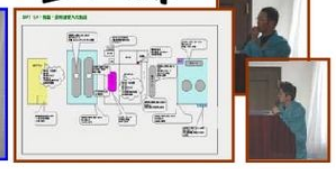
営業部



運送部



生産部



地域社会との関わり

平成21年度の工場見学企業・団体様は、105社(294名)の方々にお越し頂きました。環境方針370部、環境報告書344部、施設内作業者へへのお願い文書21部を配布しました。今年度は感染症の流行が想定されたことから、新型インフルエンザに対する入場制限のお願い文書を配布しました。弊社においてもマスク・アルコール消毒・皮膚赤外線体温計・ウィルス除去製品にて予防保全を図りました。



行政・団体・協会への積極的な関わり

- | | |
|-------------------------|------------------|
| ◎名取市消防危険物安全協会 会長 | ◎名取市商工会 |
| ◎(社)宮城県産業廃棄物協会 県南支部の事務局 | ◎仙台商工会議所 |
| ◎岩沼地区安全運転管理者会 名取部会長 | ◎(社)みやぎ工業会 |
| ◎全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会 | ◎宮城県商工振興協同組合 |
| ◎名取市環境審議会委員 | ◎チーム・マイナス6% |
| ◎名取市男女共同参画推進委員 | ◎みやぎグリーン購入ネットワーク |



人と自然が共生できる町を目指して！

[本事業は宮城県地球温暖化対策地域協議会助成事業として実施する。]

日時:平成21年8月29日(土)

会場:わたり中央公民館

目的:互理町環境基本条例による「人と自然が共生できるまち互理」を目指し、地球温暖化の防止と町民の環境保全意識を高めると共に、環境にやさしい「ライフスタイルについて一人ひとりが考え行動してもらう事」を目的とする

弊社では、自社バイオディーゼル燃料100%使用車両と燃料サンプルを展示させて頂きました。



小学生の工場見学を通して環境教育の場を提供

日時:平成21年10月13日(火)

見学者:宮城県大崎市西古川小学校 児童14名



【2010年1月11日循環経済新聞に掲載された記事紹介】

独自開発 プラント使用

オイルプリントナトリ

の年間製造量20万2000リットルで、現在も増え続けている。

同社は、2004年に宮城県環境産業新技術開発の認定事業として、産・学・官の協力体制のもと、廃食用油の回収、製造、販売まで一貫したバイオディーゼル燃料(BDF)の取り組みを行っている。09年3月に京都暫定規格の項目全ての基準をクリアしている。2008年度の実績としては、年間回収量36万7000リットル、年間製造量22万1000リットル、販売および同社で

同社の開発したプラントの精製能力は、7年々増加している。500リットル/日で、特長として、遠心分離機が導入されており、1日最小で200リットルから最大7500リットルまで需力体制のもと、廃食用油に沿った生産計画を立てられる。

また、同社はBDFの品質向上に努め、2009年3月に京都暫定規格の項目全ての基準をクリアしている。

同社では、環境規制対応車両(新長期排ガス規制車両)でも問題なく、営業車両や大型タンクローリー等の20台の燃料にBDFを使用している。

町村、行政、NPO等と共同で回収を行っている。販売先は、環境活動に積極的な企業や、公共性の高い路線バス、工場のホークリフト等の軽油代替燃料として利用している。

同社では、環境規制対応車両(新長期排ガス規制車両)でも問題なく、営業車両や大型タンクローリー等の20台の燃料にBDFを使用している。

東京都市内へ産業廃棄物収集運搬を行う際には、東京都適合車両標章のステッカーを装着して収集運搬を行っている。

同社の武田洋一社長は、「地球温暖化対策としてのCO₂削減活動を天いにアピールし、普及活動に取り組み、環境ビジネスの一翼を担う企業として地域貢献したい」と語っている。

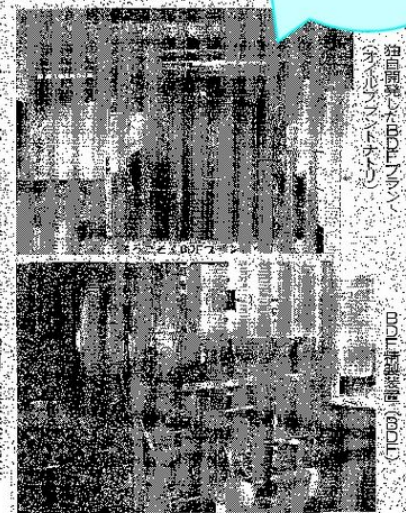


独自開発 プラント使用

オイルプリントナトリ

の年間製造量20万2000リットルで、現在も増え続けている。

同社は、2004年に宮城県環境産業新技術開発の認定事業として、産・学・官の協力体制のもと、廃食用油の回収、製造、販売まで一貫したバイオディーゼル燃料(BDF)の取り組みを行っている。



【宮城県と宮城交通様が協力して運行するバイオディーゼル燃料バスの紹介】

19年度から継続してBDF 100%を燃料とした宮城交通株式会社様の路線バスが、21年度も継続して運行されました。

〔過去の運行実績〕

19年8月24日出発式～11月30日	バス1両
20年7月22日～12月31日	バス4両
21年6月16日～12月31日	バス4両



写真は宮城県資源循環推進課HPより引用



地域住民の皆様との交流



平成21年11月23日(月)事業の変更がありませんでしたので、今年度も飯塚町内会役員の皆様方と意見交換と工場見学会を行ないました。





福祉施設とのコラボレーション



みのり会の先生方へローソク作り講習
会場:オイルプラントナトリ研修室



みのり会様で販売している
ローソクの原料供給

てんぷら油から出来たエコキャンドル



大晦日の増田神社
なとりの里の竹取物語Project様で企画
OPN参加人数 4名

OPN参加人数 4名



みのり会さんは光のアートで
幻想的な演出で参加

名取駅西口

OPN参加人数3日間で 8名

障がい者の雇用を推進し、社会人としての自立支援を応援していきたいと思います。

自動販売機の収益金は、全額名取市福祉協議会へ寄付をはじめました。



名取市関上海岸清掃への参加

日時:21年6月7日(日)

OPN参加人数 8名

名取市クリーン対策課様主催による関上海岸清掃が行われました。

20年度よりだいぶ参加者が増えているようです。しかし、マナーの悪さは相変わらずですね～



参加者の方々



市長の挨拶



コンプライアンス活動



「主な取組」

- ・ISO事務局で法と業務の関連資料をブラッシュアップし、社内全体研修で教育を実施
- ・産業廃棄物、特別管理産業廃棄物収集運搬業の新規申請(東京都・千葉県・静岡県)
- ・産業廃棄物、特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可更新(秋田県・秋田市・仙台市)
- ・県外産業廃棄物搬入実績報告(岩手県・青森県・秋田県)
- ・車両廃止による移動タンク休止届け
- ・役員変更により令7条施設に関わる届出を行い、各県へ変更届実施
- ・消防予防規程提出
- ・PRTR報告
- ・産業廃棄物、特別管理産業廃棄物実績報告
- ・事前協議(岩手県・青森県・秋田県)
- ・産業廃棄物収集運搬業講習会(2名)・処分業講習会(4名)



GPS管理システム導入

GPSシステムにより、運搬経路の透明性・最短距離で走行しているか確認と指示・運搬経路表示はスピードにより色で識別されている事から、一目で安全運転されているか確認が取れます。(一部車両)



単位:kg

PRTR届出量

第一種指定化学物質の名称		大気への排出	移動量
号番号	名称	平成21年度	平成21年度
63	キシレン	120	2,800
227	トルエン	870	12,000
40	エチルベンゼン	報告義務数量以下	報告義務数量以下

ばい煙測定

SOx規制値(1.17m³N/h)

NOx規制値180(volppm)

	H16.3	H16.9	H17.3	H17.9	H18.3	H18.9	H19.3	H19.9	H20.3	H20.9	H21.3	H21.8	H22.3
硫黄酸化物(SOx)	0.12	0.15	0.10	0.13	0.06	0.25	0.60	0.16	0.13	1.13	0.09	0.11	0.08
窒素酸化物(NOx)	120	120	110	130	170	120	70	97	170	140	110	140	97
硫黄酸化物排出基準値は係数により変動する							1.5	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.17

騒音・振動測定

騒音基準値55dB

振動基準値60dB

第1工場	H17	H18	H19	H20	H21
騒音No.1	54	54	51	51	48
騒音No.2	54	55	54	54	54
騒音No.3	52	52	50	53	49
騒音No.4	50	52	52	53	47

第1工場	H17	H18	H19	H20	H21
振動No.1	36	38	36	35	30
振動No.2	34	40	39	38	30
振動No.3	35	34	32	31	30
振動No.4	31	34	30	33	30

第2工場	H17	H18	H19	H20	H21
騒音A地点	53	49	49	54	48
騒音B地点	55	54	51	50	51
騒音C地点	54	52	49	47	42

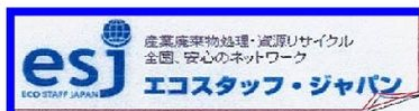
第2工場	H17	H18	H19	H20	H21
振動A地点	37	35	30	34	30
振動B地点	42	34	32	30	30
振動C地点	38	32	29	33	30

安心・安全をめざして

株式会社リコー様の廃棄物優良処理業者認定制度に認定されました

リコーグループ様では、国内の生産事業所と取引のあるすべての廃棄物処理業者(約160社)から優良企業を選び、ホームページ上で公開しております。

同社は廃棄物の管理体制、汚染防止対策など約100項目について5段階評価をし、該当項目すべてで3以上の企業と取引をしているが、優良認定するのは評価が4以上の企業で、これまでに全国14社(20事業所)が選ばれ、平成21年度には弊社が認定されました。(日本経済新聞で掲載された記事より抜粋)



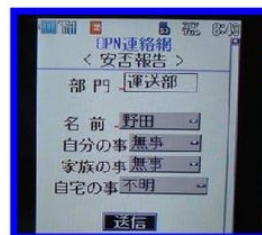
『エコスタッフ・ジャパンとは』

安心・安全な廃棄物処理を、全国どこでも提供できるようにコンプライアンスはもちろんのこと、第三者評価による顧客向けのサービス・品質基準をクリアした会社のみを認定している安心・安全な廃棄物の全国ネットワークです。

現在、弊社も含め北は青森県から南は沖縄県までの30社が加盟しており、認定企業の選任マネージャーは定期的に講習受講が必須となっています。また、ESJマニュアルに沿った勉強会、営業・運送・処理に係わる人材育成のための講習や優良企業の見学会なども実施しております。

安否確認メールシステム

メールシステムを4年前に導入し、いつ起こるか分からない地震時における社員の安否確認ができるよう定期的に訓練を実施しています。



個人の携帯から入力フォームを利用し個人の情報を送信します。管理者は各部全員の情報を確認する事が出来ます。

表彰制度 (写真は一例)



一年間、無事故・無違反・ノートラブルの従業員には、毎年表彰を行なっています

環境監査

工場視察者

廃棄物を排出する企業の責任として、弊社でもリサイクル出来ない残渣物については処理業者を定期的にチェックしております。今年度は運送業者の確認も行いました。



処理施設・カンパンの確認



教育記録の確認

内部環境監査

内部環境監査を定期的に行い、環境マネジメントシステムの有効性を確認しています。また、他部門の監査を行う事で自部門との関わりあいや良好な活動の水平展開を行なえる相乗効果もあります。定期監査の他に環境パトロール活動の役割はとても大きく、その意味や即効性に期待するところは大きいです。年4回活動を行い継続的に改善されています。

外部環境監査

環境マネジメントシステムが、2004年度版に従い適切に運営されているか、外部の審査登録機関である財団法人日本規格協会(JSA)に審査を依頼しております。

今年度は、第3回目の更新審査となり、観察事項1件および改善課題1件が検出されています。



(回収作業の審査)



表彰

多くの皆様に支えて頂き、今日があります。



20年度

社会福祉法人みのり会様より、施設の運営に協力した事について感謝状を頂きました。



21年度

リコー様から産業廃棄物の優良処理業者に認められた認定をいただきました。

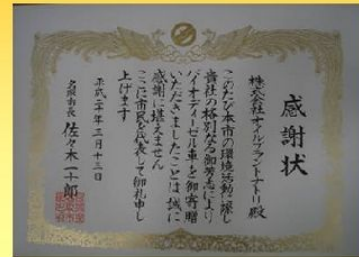


19年度

創業50周年を向かえ、仙台市長様・仙台商工会議所会頭様連名で、お祝いの記念品を頂戴しました。



名取市の環境活動に支援した事により、名取市長様より感謝状を頂戴しました。



17年度

「ポジティブ・アクション推進事業」女性の登用・職域拡大部門賞



県知事様より、職場における女性の能力発揮の促進に積極的な取り組みをしている事業所として頂きました。

18年度

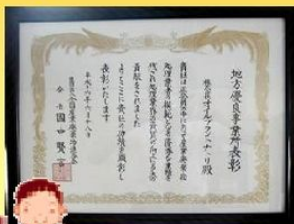
優良事業所表彰



交通事故防止の重要性を認識し職場一体となった交通安全活動を認めて頂きました。

社団法人全国産業廃棄物連合会会長賞 地方優良事業所

産業廃棄物の適正な処理活動を認めて頂きました。

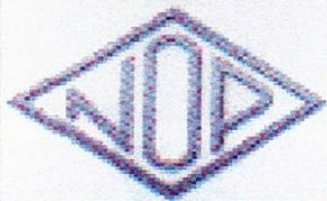


16年度

消防庁長官賞

危険物の安全管理や保安に関する施設の推進活動を認めて頂きました。

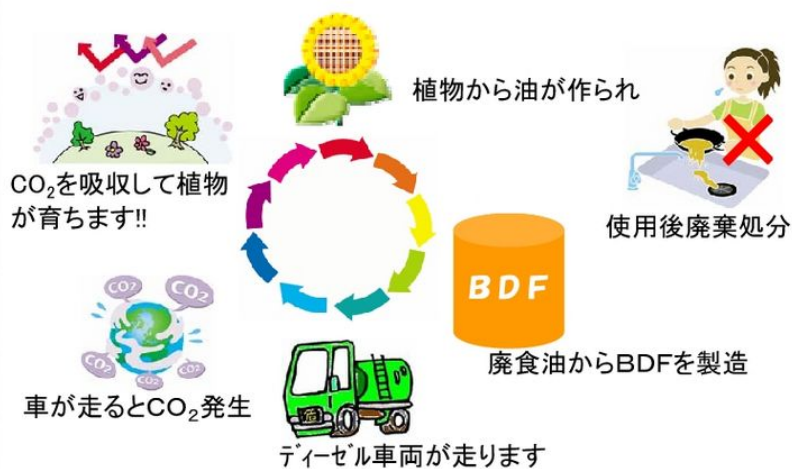




BDFを使用すると CO₂カウントはゼロ

植物は、成長過程で光合成によって二酸化炭素を吸収することから、バイオ燃料は二酸化炭素の増減に影響を与えないと考えられています。

これにより循環サイクル（カーボンニュートラル）が実現します。



株式会社オイルフロントナトリ

〒981-1224

宮城県名取市増田三丁目4番3号

TEL 022-382-2713 FAX 022-384-0946

E-mail : opn-amenity@msf.biglobe.ne.jp

---発行 2010年9月 I S O事務局---